

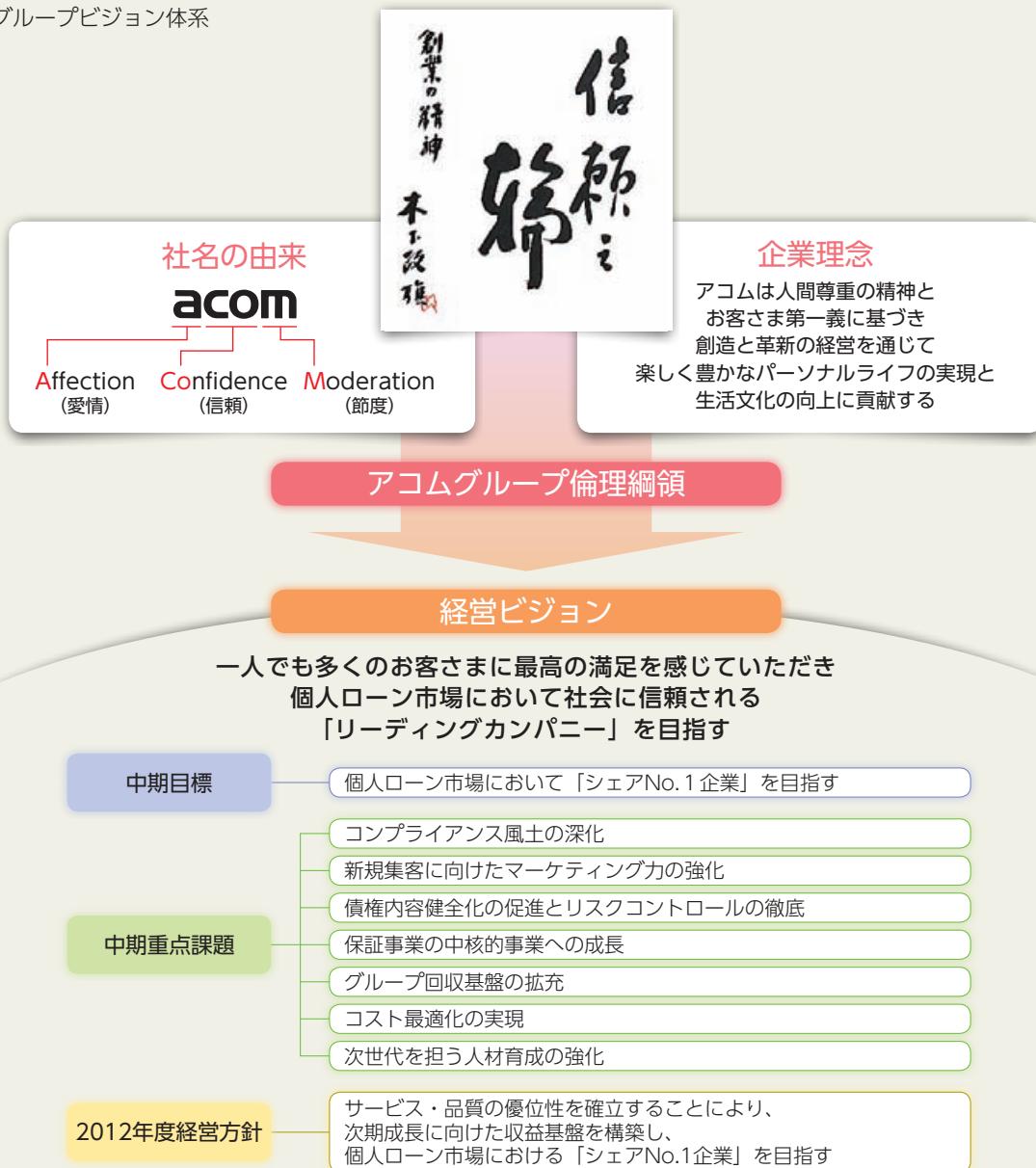


KEY NOTE

2013年3月期中間報告書
2012年4月1日～2012年9月30日

Our Vision

アコムグループビジョン体系



<本誌の発行にあたって> 本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社グループが把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を内包するものであって、現実の業績は、諸々の要因により、かかる予想値と異なってくる可能性があります。

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご支援をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

当社グループを取り巻く経営環境は、改正貸金業法施行等の影響により、市場は引き続き縮小傾向が続いておりますが、大手貸金業者の新顧客数の増加や営業貸付金残高の減少速度の鈍化など、ようやく「好転の兆し」が見え始めてきたと感じております。

このような環境のなか、当社グループは、「一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき個人ローン市場において社会に信頼されるリーディングカンパニーを目指す」という経営ビジョンの下、各種施策に取り組んだ結果、ローン事業においては、利息返還請求の動向が減少基調で推移していることに加え、9月末の消費者向け無担保ローン残高が前月比でほぼ横ばいで推移するなど、減少速度が一層鈍化しており、また、信用保証事業および海外事業も堅調に拡大しております。

今後も引き続き、当社グループは、MUFGグループと緊密に連携しながら、次期成長に向けた態勢整備と経営基盤の強化を念頭に置き、着実に利益を押し上げる事業構造改革を進めてまいります。

なお、中間配当につきましては、経営の安定・安全性向上の観点より、自己資本の拡充が最優先課題であるとの認識に基づき、誠に遺憾ながら、無配とさせていただくこととなりました。株主の皆さまには、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後も、グループ一丸となって経営基盤の強化に向け努力してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、引き続きご理解、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2012年12月

代表取締役社長兼会長

木下盛好



Review of Operations

連結決算の概況

連結経営成績(2012.4~2012.9)

当第2四半期連結累計期間における営業収益は、営業貸付金利息の減少を主因に978億6千万円(前年同期比9.4%減)、営業費用は、貸倒引当金繰入額および一般管理費等の減少により694億9千7百万円(前年同期比8.5%減)となり、営業利益は283億6千3百万円(前年同期比11.7%減)、経常利益は287億8千8百万円(前年同期比12.0%減)となりました。

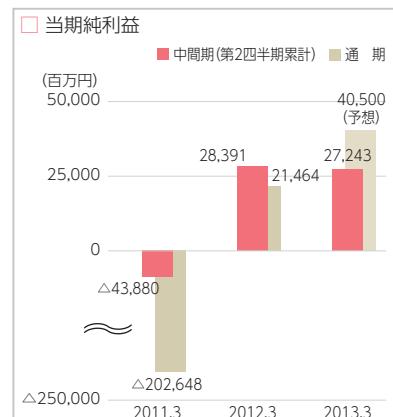
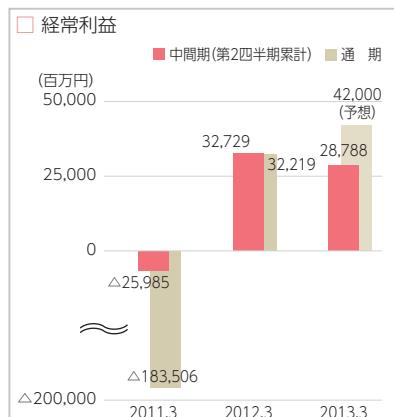
また、特別利益に(株)じぶん銀行との間で発生した、事業分離における移転利益を計上したことなどにより、四半期純利益は272億4千3百万円(前年同期比4.0%減)となりました。

連結経営成績

科目	2011.3	2011.9	2012.3	2012.9	2013.3 (予想)
営業収益 (百万円)	245,831	108,042	210,456	97,860	186,900
営業利益 (百万円)	△184,785	32,116	30,885	28,363	41,300
経常利益 (百万円)	△183,506	32,729	32,219	28,788	42,000
当期純利益 (百万円)	△202,648	28,391	21,464	27,243	40,500
1株当たり当期純利益 (円)	△1,293.54	181.23	137.01	173.90	258.52
ROE (自己資本当期純利益率) (%)	△60.3	11.3	8.7	10.1	—
ROA (総資産当期純利益率) (%)	△14.6	2.2	1.7	2.3	—

(注) ROE、ROA 算出のための自己資本および総資産は期首と期末の平均値を使用しています。

業績の推移



(株)三菱東京UFJ銀行との信用保証事業の共同運営

当社は9月27日に(株)三菱東京UFJ銀行がSMBCコンシューマーファイナンス(株)との間で(株)モビットの金融機関向け信用保証事業(以下「保証事業」)を承継することについて基本合意したことをうけ、同事業を当社と(株)三菱東京UFJ銀行の合併会社により共同運営する方向で検討を開始することについて、(株)三菱東京UFJ銀行と基本合意をいたしました。

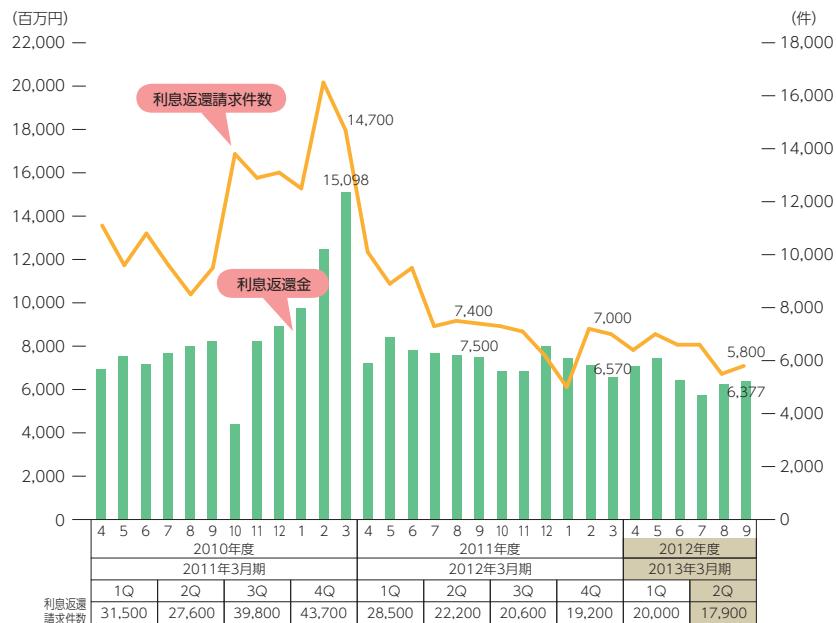
この基本合意は、MUFGグループの消費者金融事業の中核企業である当社が長年培ったノウハウを活かし、保証事業の価値最大化を図るものであり、今後、共同で保証事業を承継するための保証新会社の設立、保証事業を吸収分割により保証新会社に承継することを予定しております。

利息返還損失と利息返還請求の状況

当第2四半期累計期間の利息返還損失は、利息返還金371億9千7百万円と債権放棄額118億1千万円の合計490億8百万円となり、全額を利息返還損失引当金の取り崩しで対応いたしました。その結果、当第2四半期末の同引当金は1,511億9千1百万円となりました。

なお、利息返還請求の動向は、2011年2月をピークに減少基調となり、当第2四半期間も引き続き減少傾向で推移しておりますが、完済されたお客さまからの利息返還請求は高止まりの傾向も見受けられるなど、今後の減少見通しに対する不確実性も存在しております。

□ 利息返還請求件数および利息返還金（キャッシュ・アウト額）の推移



Segments Report

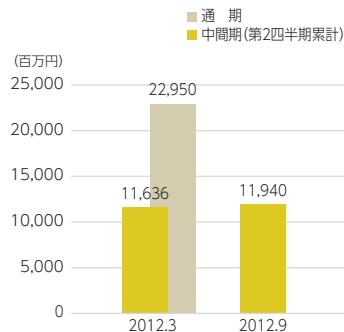
セグメント別の概況

営業収益

□ ローン・包括信用購入あっせん事業



□ 信用保証事業



● ローン・包括信用購入あっせん事業

国内のローン・包括信用購入あっせん事業においては、当社カードローン債権の譲渡を主因とした営業貸付金の減少および上限金利引き下げ等による平均利回りの低下、割賦売掛金の減少などにより、営業貸付金利息、包括信用購入あっせん収益が前年同期に比べ減少したことを主因に、営業収益は672億1千1百万円（前年同期比13.3%減）となりました。また、営業費用の貸倒引当金繰入額および一般管理費が減少した結果、営業利益は201億8千2百万円（前年同期比16.3%減）となりました。

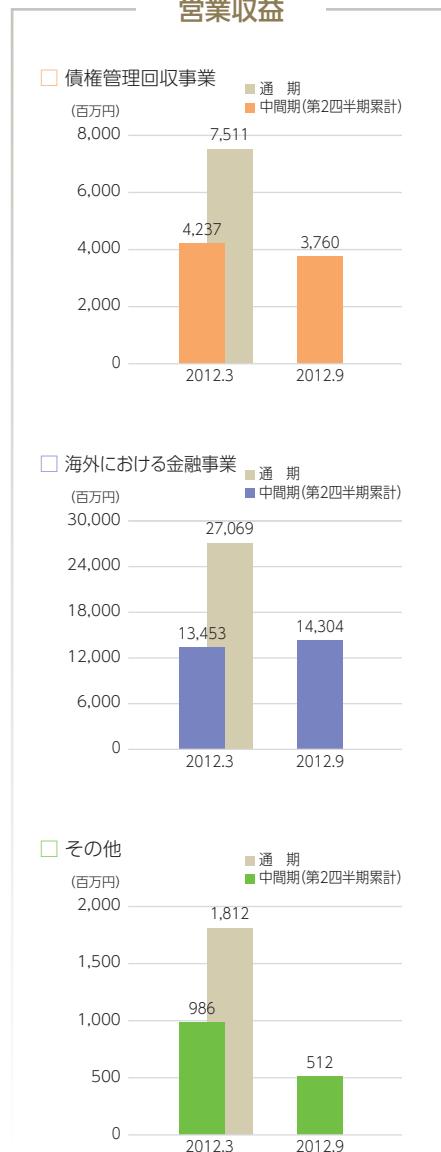
● 信用保証事業

信用保証事業においては、(株)じぶん銀行が承継したカードローンに係る保証業務を新たに開始したことに加え、既存提携先の信用保証残高が堅調に増加いたしました。当事業の業績といたしましては、営業収益は119億4千万円（前年同期比2.6%増）となり、営業費用の債務保証損失引当金繰入額が前年同期に比べ増加したことにより、営業利益は38億3千7百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

営業収益

● 債権管理回収事業

債権管理回収事業においては、取扱高（買取債権）の減少により、買取債権回収高が前年同期に比べ減少となり、営業収益は37億6千万円（前年同期比11.3%減）、営業利益は6億9千5百万円（前年同期比24.5%増）となりました。



● 海外における金融事業

タイ王国のローン事業においては、引き続き営業貸付金が堅調に増加いたしました。また、インドネシア共和国の銀行業においても、事業者向小口貸出を中心に銀行業貸出金が前年同期に比べ大幅な増加となりました。この結果、営業収益は143億4百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は34億2千3百万円（前年同期比12.8%増）となりました。

主力であるローン事業に次ぐ柱として、 更なる業容拡大を目指す信用保証事業

当社は、信用保証事業において2001年に(株)北海道銀行と最初の提携をおこない、以降、有力地方銀行を中心にネットワークを駆け、現在では、ネット銀行を含む全国22の金融機関と提携をおこなっています。

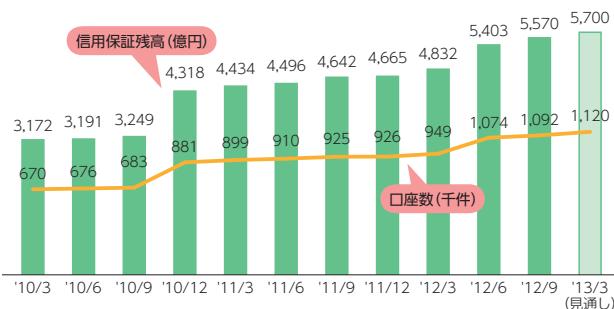
(株)三菱東京UFJ銀行とは、2007年より発売しているカードローン商品「バンクイック」の保証提携をはじめ、三菱UFJ住宅ローン保証(株)、三菱UFJニコス(株)が担って

いた(株)三菱東京UFJ銀行向け無担保カードローンの保証提携を承継しており、当社は、MUFJグループの消費者金融事業における中核企業として、グループの信用保証事業においても中核を担っています。

信用保証残高につきましては、2012年5月には、当社が「キャッシュワン」ブランドで営むローン事業を会社分割により「(株)じぶん銀行」へ譲渡し、本ローン事業の信用保証業務を受託したことに加え、「バンクイック」の残高伸長をはじめとする既存提携先の信用保証残高が順調に拡大したことにより、今期計画している信用保証残高5,700億円達成に向け順調に推移しております。

このように、主力であるローン事業に次ぐ第2の柱として、信用保証事業は順調に拡大しており、ローン事業と信用保証事業の双方で、「個人ローン市場における『シェアNo.1企業』を目指す」という経営方針のもと、当社の事業戦略は着実に進展しています。

□ 信用保証残高および口座数の推移



テレビCM「世界のアコムから」シリーズ

7月4日から新テレビCM「世界のアコムから」篇を放映しています。

このCMは、世界中に実在する「アコム」という会社や人々とコラボレーションすることで、計画性やバランスなどを共通の話題にして「アコム」の名前をより深く覚えてもらい、「身近なアコム」「便利なアコム」の存在をPRしようという内容になっています。



アコム の 社会貢献活動方針

当社は、経営の基本的な理念において創業の精神に「信頼の輪を拡げよう」、企業理念に「生活文化の向上に貢献する」を掲げています。社会貢献活動においても、この理念に基づいて、さまざまな活動を通じて、「身近なアコム」「社会に調和した企業市民」を目指しています。

◎ 笑顔のおてつだい「アコム“みる”コンサート物語」

「アコム“みる”コンサート物語」開催にあたっては、「誰かのために何かをしたい」「多くの人の笑顔がみたい」「地域社会と良好な関係を築きたい」という3つの思いがこめられています。

「親子で楽しんでいただこう」として始まったこのコンサートは、もっと多くの方々に楽しんでもらいたいとの思いから、現在では手話通訳や車イス専用席を充実させるなどさまざまな工夫をおこない、バリアフリーコンサートとして各地で開催するようになりました。



影絵と生演奏



影絵「星の王子さま」より

コンサート概要

「影絵の光」と「生演奏の音」、そして「語り」と「手話」が一体となった芸術で、お子さまからお年寄りまで、誰もが一緒に楽しめるバリアフリーコンサートです。

実績

(2012年9月末現在)

- 1994年の初回公演以来、全国各地で167回公演、総来場者数159,768人
- 2012年上半年は北海道、神奈川、大阪で計5公演（総来場者数5,050人）を開催

バリアフリーとしての工夫など

- 車イス専用席の充実、手話通訳、ボランティアによる場内誘導など
- 景品として授産製品を購入するほか、福祉施設へパンフレット封入の仕事を依頼

「アコム社員による献血活動」を実施

当社は、2012年9月に当社が所在する東京・丸の内にて献血活動をおこない、多くの社員が協力しました。丸の内での献血バス設置による活動は当社が初めてでしたが、地域の皆さまのご理解、ご協力を得て、「アコムの献血活動」を実施することができました。当社は、今後も企業市民として地域社会と良好な関係を築きつつ、社会貢献活動を実施していきます。

Financial Data

連結財務情報

○ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目		前期末 2012年3月31日現在	当第2四半期末 2012年9月30日現在
資	流		
	現金	1,159,577	1,114,982
	預貯金	121,726	145,981
	銀行預金	867,491	802,762
	有価証券	41,518	47,046
	債権	27,690	23,300
	株式	10,159	9,077
	債権	38,340	48,572
	債権	5,025	4,464
	債権	20,750	17,941
	債権	74,809	62,359
	債権	△ 47,934	△ 46,523
	債権	52,884	52,794
	債権	24,764	24,498
	債権	10,443	12,296
	債権	10,397	12,078
	債権	46	218
	債権	17,675	15,998
	債権	6,678	6,313
	債権	10,996	9,684
	合計	1,212,461	1,167,776
負	流		
	短期借入金	332,711	372,399
	長期借入金	4,008	14,867
	短期借入金	166,193	153,560
	長期借入金	87,103	122,609
	短期借入金	50,841	58,692
	長期借入金	6,230	6,890
	短期借入金	886	534
	長期借入金	17,448	15,245
	短期借入金	614,835	505,771
	長期借入金	135,378	74,023
	短期借入金	271,349	273,234
	長期借入金	950	471
	短期借入金	200,200	151,191
	長期借入金	4,405	4,431
	短期借入金	2,550	2,418
	合計	947,546	878,170
純	株		
	資本	261,976	289,220
	剰余金	63,832	63,832
	利益剰余金	76,010	76,010
	利益剰余金	141,927	169,170
	利益剰余金	△ 19,793	△ 19,793
	利益剰余金	△ 4,213	△ 5,421
	利益剰余金	712	△ 242
	利益剰余金	△ 4,925	△ 5,179
	利益剰余金	7,151	5,807
	合計	264,915	289,605
純	負債	1,212,461	1,167,776

連結貸借対照表のポイント

A 営業貸付金

前期末に比べ、営業貸付金は64,729百万円(前期比7.5%)減少しました。主な要因は、当社のカードローン事業の一部を会社分割し、(株)じぶん銀行へ承継したことによるものです。

B 借入金・社債

前期に比べ、借入金、社債等の有利子負債残高が25,738百万円(前期比3.9%)減少しました。

C 利息返還損失引当金

利息返還に伴う貸付金元本放棄額や返還金49,008百万円は、利息返還損失引当金の取り崩しで対応いたしました。

D 株主資本・その他の包括利益累計額

自己資本は、26,034百万円増加し、283,798百万円となり、自己資本比率は、3.0ポイント増加し、24.3%となりました。

○ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	当第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで
営 業 収 益	108,042	97,860
営 業 貸 付 金 利 息	81,589	71,092
銀 行 業 貸 出 金 利 息	2,245	2,692
包 括 信 用 購 入 あ っ せ ん 収 益	1,252	1,133
個 別 信 用 購 入 あ っ せ ん 収 益	954	373
信 用 保 証 収 益	10,508	10,610
買 取 債 権 回 収 高	3,826	3,240
そ の 他 の 金 融 収 益	578	558
そ の 他 の 営 業 収 益	7,086	8,159
営 業 費 用	75,926	69,497
金 融 費 用	12,082	11,494
債 権 買 取 原 価	1,871	1,749
そ の 他 の 営 業 費 用	61,972	56,252
営 業 利 益	32,116	28,363
営 業 外 収 益	663	491
受 取 利 息 ・ 配 当 金	356	241
そ の 他	307	249
営 業 外 費 用	50	66
為 替 差 損	6	21
そ の 他	44	45
経 常 利 益	32,729	28,788
特 別 利 益	553	3,278
投 資 有 価 証 券 売 却 益	515	11
関 係 会 社 株 式 売 却 益	-	356
事 業 分 離 に お け る 移 転 利 益	-	2,900
そ の 他	37	10
特 別 損 失	823	258
固 定 資 産 売 却 損 ・ 除 却 損	71	58
減 損 損 失	19	0
投 資 有 価 証 券 売 却 損	502	-
投 資 有 価 証 券 評 価 損	227	182
そ の 他	2	16
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	32,458	31,808
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	1,240	990
法 人 税 等 調 整 額	1,739	2,436
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	29,478	28,381
少 数 株 主 利 益	1,086	1,138
四 半 期 純 利 益	28,391	27,243

連結損益計算書のポイント

A 営業貸付金利

残高減少、利回りの低下などに起因し、前年同期に比べ、営業貸付金利は10,496百万円(前年同期比12.9%)減少しました。

B その他の営業費用

前年同期に比べ、その他の営業費用は5,719百万円(前年同期比9.2%)減少しました。

主な要因は、貸倒引当金繰入額の減少によるものです。

C 事業分離における移転利益

当社のカードローン事業の一部を会社分割し、株式会社ぶん銀行へ承継したことにより、事業分離における移転利益が発生しました。

Financial Data

連結財務情報

○ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	当第2四半期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	32,458	31,808
減価償却費	927	789
のれん償却額	492	837
貸倒引当金の増減額	△ 6,021	△ 1,555
利息返還損失引当金の増減額	△ 66,687	△ 49,008
事業分離における移転利益	—	△ 2,900
営業貸付金の増減額	53,174	22,267
銀行業貸出金の増減額	△ 7,377	△ 6,711
割賦売掛金の増減額	9,454	4,399
買取債権の増減額	1,023	1,082
商品有価証券の増減額	△ 6,083	△ 8,596
銀行業預金の増減額	8,088	9,337
割賦利益繰延の増減額	△ 966	△ 353
その他	8,998	1,661
小計	27,481	3,059
利息及び配当金の受取額	354	240
事業構造改善費用の支払額	△ 243	—
法人税等の支払額	△ 1,187	△ 1,440
その他	177	435
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,581	2,295
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 361	△ 307
有形固定資産の売却による収入	76	42
投資有価証券の売却による収入	3,075	469
子会社株式の取得による支出	—	△ 6,124
子会社株式の売却による収入	—	1,376
事業譲渡による収入	—	46,717
その他	328	△ 239
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,118	41,934
財務活動によるキャッシュ・フロー		
有利子負債の借入等による収入	139,640	117,598
有利子負債の返済等による支出	△ 116,438	△ 144,250
配当金の支払額	△ 0	△ 0
その他	△ 49	△ 23
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,152	△ 26,675
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	△ 265
現金及び現金同等物の増減額	52,870	17,288
現金及び現金同等物の期首残高	162,910	193,441
現金及び現金同等物の四半期末残高	215,781	210,729

連結キャッシュ・フロー 計算書のポイント

A 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益31,808百万円に、利息返還損失引当金の減少額が49,008百万円、営業貸付金の減少額が22,267百万円となったことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローは2,295百万円のキャッシュ・インとなりました。

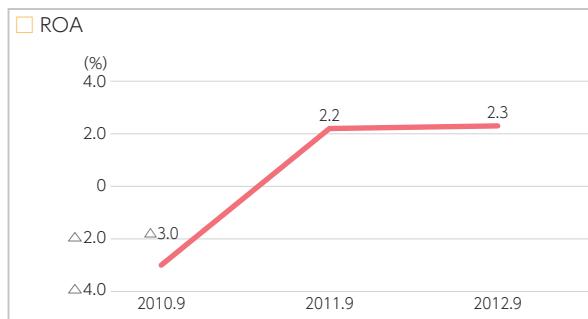
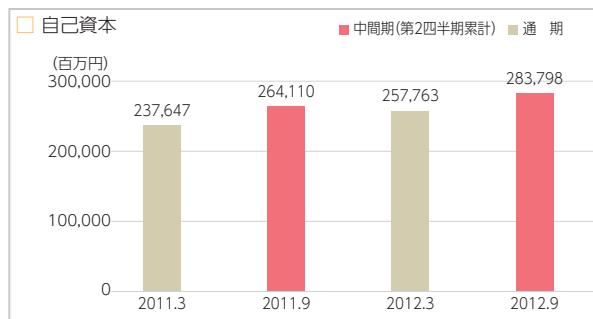
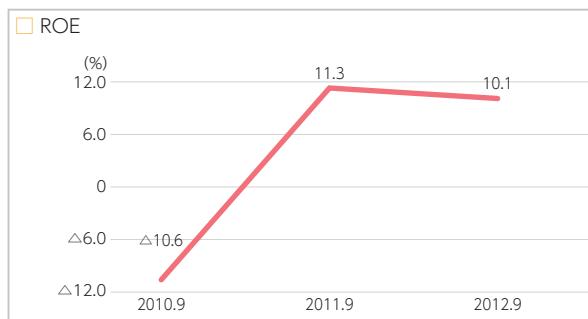
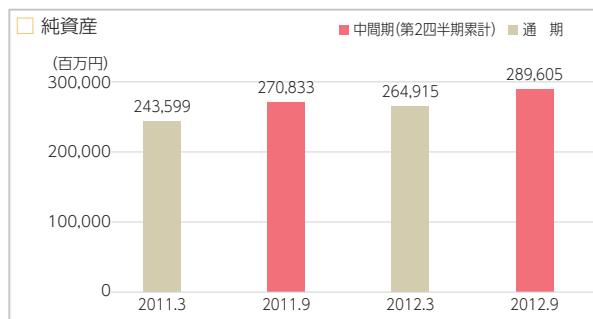
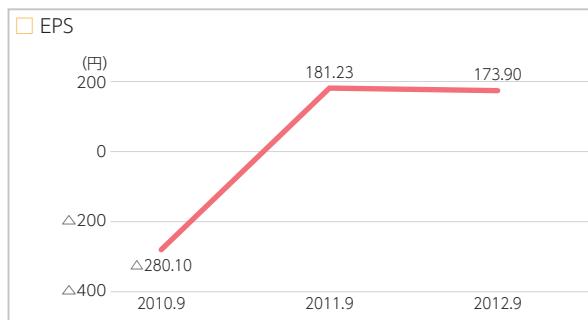
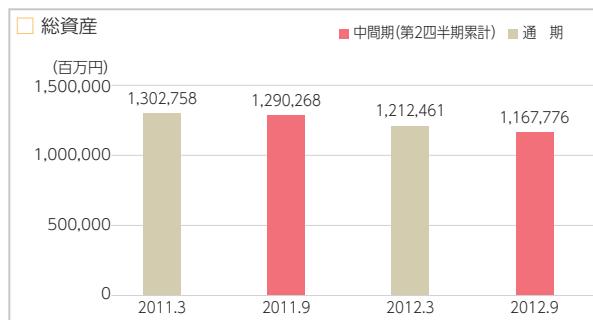
B 投資活動によるキャッシュ・フロー

子会社株式の取得による支出6,124百万円、(株)じぶん銀行へカードローン債権を譲渡したことによる収入46,717百万円などにより、投資活動によるキャッシュ・フローは41,934百万円のキャッシュ・インとなりました。

C 財務活動によるキャッシュ・フロー

有利子負債の借入等による収入が、有利子負債の返済等による支出を26,651百万円下回ったことなどにより、財務活動によるキャッシュ・フローは26,675百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

◎ 連結財務ハイライト



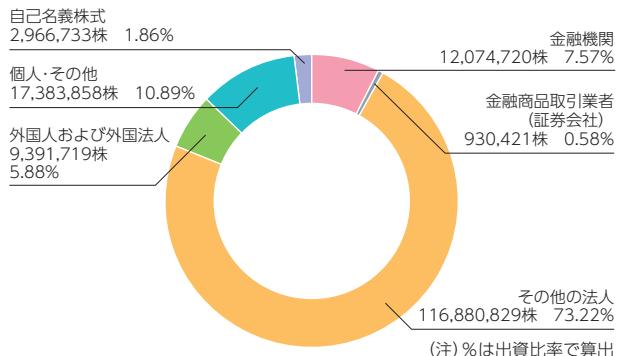
Shareholders Information

株式の状況 (2012年9月30日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数	532,197,400株
発行済株式の総数	159,628,280株
株主数	10,314名

所有者別分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	58,872,349	37.57
丸糸殖産株式会社	27,346,755	17.45
マルイト株式会社	12,553,343	8.01
公益財団法人木下記念事業団	9,219,232	5.88
株式会社丸糸商店	3,873,320	2.47
木下恭輔	3,259,883	2.08
木下盛好	3,239,726	2.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	3,157,280	2.01
株式会社暢佳	3,000,000	1.91
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4)	2,711,780	1.73

※上記のほか当社所有の自己株式2,966,733株があります。

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 8572

いいかぶ

検索



空メールにより URL自動返信 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

Company Profile

会社情報 (2012年9月30日現在)

◎ 会社の概要

商号 アコム株式会社
(英文社名) ACOM CO., LTD.
設立年月日 1978年(昭和53年)10月23日
(創業) 1936年(昭和11年)4月2日
資本金 638億3,252万円
主な事業内容 ローン事業・包括信用購入あっせん事業(クレジットカード事業)・信用保証事業
従業員数 1,711名
本社所在地 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
登録番号 関東財務局長(10)第00022号
関東(包)第5号
加盟団体 日本貸金業協会
日本消費者金融協会(JCFA)
社団法人日本クレジット協会
社団法人日本経済団体連合会
主要取引金融機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

◎ 取締役・監査役および執行役員

代表取締役社長兼会長 (兼 社長執行役員)	木下 盛好
代表取締役副会長	梶浦 敏明
専務取締役 (兼 専務執行役員)	赤木 滋
常務取締役 (兼 常務執行役員)	富松 悟
常務取締役 (兼 常務執行役員)	立木 清
常務取締役 (兼 常務執行役員)	瀧 達雄
取締役	今川 達功
常勤監査役	佐藤 茂
常勤監査役 (社外)	安田 伸一
常勤監査役 (社外・独立役員)	大嶋 英二
監査役 (社外・独立役員)	土井 隆
常務執行役員	田淵 悦郎
常務執行役員	福元 一雄
常務執行役員	提橋 輝幸
常務執行役員	厚田 理郎
執行役員	北 芳治
執行役員	渡邊 範善
執行役員	松原 義則
執行役員	宮川 悟

◎ アコムグループ

< 連結子会社 > ●アイ・アール債権回収株式会社
●EASY BUY Public Company Limited

●アフレッシュクレジット株式会社
●PT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.

他4社

< 持分法適用関連会社 > ●エム・ユー・コミュニケーションズ株式会社



acom

A — Affection 愛情

CO — Confidence 信頼

M — Moderation 節度

アコム株式会社

本社 〒100-8307

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(明治安田生命ビル)

電話(03)5533-0811(代表)

ホームページ <http://www.acom.co.jp>

表紙のタイトル

「KEY NOTE(キー・ノート)」には、株主の皆さまに、アコムグループをより深くご理解いただくための〈鍵となる報告書〉でありたいという願いが込められています。小誌が当社グループの概況を知るための一助となれば幸いです。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	10株
公告方法	電子公告 (http://www.acom.co.jp) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
銘柄コード	8572

お知らせ

- 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。